

■ 検討協議会に寄せられた意見（意見用紙から）

※原文のまま記載

回次	提出者	内 容
第 1 回	委員	<p>賑わい創出の基本方針は提示されているが、理念ばかりで読んでも方向性が全く伝わって来ない。イメージ可能な理念を示すことが大切で、先日述べた「芭蕉生誕地という他にない利点」を中心とした文化的都市の確立をめざすことで旧上野市と他の 4 町村にも理解が得やすく、その共通認識の下に各町村の具体的な方向性を考えないと空論に終る。但文化だけでは経済性が見込めないくらいはあるが、それをどう発展し実施してゆくかで明るい未来が見えてくると思われる。市街地の活性化がともすれば旧市街地のみのもので受け止められかねない中、5 町村が共に協力し前進しあえるためには、個々の特性を活かし、方向を同じくしつつも分散形の賑わい創出をめざして初めて伊賀市としての成果が実感できるのではと考えます。</p>
	傍聴者	<p>1 月 6 日に第 1 回目の協議会が開催され、上野商工会議所からは、伊賀市の賑わい創出に向けたランドデザイン計画について責任者から説明がされたとのこととあります。しかしながら、議会からは責任者の出席はなく、代わって市当局から、議会の案が説明されたとのこととあります。この議会の案は、市民の意志を反映しているものではなく、議会独自の案です。</p> <p>議員は選挙で選出されますが、多くの場合は地域からの選出です。旧上野地域の方が多数であるが故に優勢に扱われることは違和目の無いこととありますが、議会としまして各種の事案を数の論理で決めることについては、郡部に対する配慮がともすると欠如し、市民全体の意志に沿っているものとは言えず横暴さを感じています。</p> <p>協議会は、市の各種団体代表と有識者 20 名をもって構成され、伊賀市丸之内 1 1 6 番地を伊賀市の中心地として、その活用方策を考えながら、伊賀市の賑わい創出について協議するものです。また、検討する際には、周辺地域への効果、波及についても配慮していくとのこととです。そして、できた計画については、市民の意見を聞き、市民の意志を反映した方針が決定されるのであります。</p> <p>議会として、計画や出てきた方針に対する対応について協議会で説明しないのはなぜですか？ 議会は、この方針（結果）をどうしようと思っているのですか？ 議会は、別な方針を示すのですか？ その場合において、何を根拠に示すのですか？</p> <p>議会としての方針を、協議会で説明し市民に問うことが議会の責任ではありませんか！</p> <p>伊賀市丸之内 1 1 6 番地を中心とした、鍵屋の辻から天満宮に至る地域は、伊賀市の文化が集積しており伊賀市が誇れる地域です。伊賀市を全国に発信できる拠点です。また、現庁舎は昭和初期の坂倉建築で文化的な価値があり、この地域の代表的な建物であります。</p> <p>とは言え、現庁舎を活用するについては、「もったいない精神」を十二分に考慮し、フルに活用していくべきで芭蕉記念館も含めて活用し、余計な建物は造らないでください。何でも金をかければ賑わいが創出されるものではありません。ハード（箱物）よりはソフト（配置する人）が重要です。そして、私は孫にまで借金を残したくありません。</p>

回次	提出者	内 容
第 1 回	傍聴者	<p>第 1 回傍聴を終えて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局様の資料 伊賀市行政の取り組みの深さを感じました 2. 上野商工会議所様の企画書は、プロの企画書を見せていただきました 息子が、生活する将来の市街地の賑わいは、見られるのか？ 私が、子供のころの町とどこが違うのか？よくなったのか？そういう視点から… 新しい店舗の周辺に昔、よく流行っていた店が、消えていっています。町を出て 5 0 年近くなりませんが、相変わらず下水道が整備されず、街中をバキュームカーが走っています。 私は 7 年前農人町でトイレを水洗にするため、浄化槽を必要としてやりました。水道引き込みもやりかえました。1 6 mm の鉛管が、使われていたのに驚きました。景観条例で、建物の美観は良く、道路は、バリアフリー、電柱の無柱で、よくなったと外から来た目は良いと思いますが、住民の市民感覚として、時代にあっていないところを感じました。 以下はつぶやきです 1. 市内の高齢化した住民が、街に出て行くたまり場があり出ていく楽しさを創出できる企画が、観光客向けの建設プランと併設して計画検討できないでしょうか？ 2. 街の顔は、昼と夜の両面で企画できないでしょうか？ 市街地を歩いて行ける距離にルートインホテルがあります。他にもあります。あのホテルは、朝食は用意していますが、夜は外食です。（宿泊していないので、間違いがあるかもしれませんが、あのホテルの他物件を設計参加した経験です） 駅周辺に飲食店街があればいいと思う。現況は、名張駅前のほうが賑わいがあるように思えます。市内の高齢化した、飲みたい人もいます。 3. 市街地の道路事情、電車の人の動線など、合わせて検討が必要ではないでしょうか？それは、行政まかせでしょうか？建設地の計画が運営可能するための、人の流れ、駐車場の確保、距離などその場所か、店舗をやる人に、魅力があるかなど仕掛けが必要かと思えます。（イベントの場所） 4. 図書館の立地の重みを考えてほしいと思います。 南庁舎の立地は、上野高校、中学校、小学校と伊賀市の将来を担う子供が、勉学する教育ゾーンです。それに隣接して、伊賀市の歴史のある赤門があり、その並びに図書館の計画というのは、理にかなっているのではないのでしょうか？子供の図書利用の利便性は、駅の近くでもあり絶好では、ないでしょうか？また、図書館は若、い人だけでなく高齢者の死ぬまで知識を得たいという楽しみを持てる場所でもあります。 観光客は、経済効果があり、賑わいに欠かせないものですが、日常的に住む人が、郊外に出て行かず（車移動は、限界がきます）、歩いていけるところ、買い物と楽しみを持てるところを片方重視（観光客）でなく平行して検討できないでしょうか？ 5. 伊賀市の課題は、伊賀市内だけでなく、隣接している名張市も含めて計画はできないでしょうか？ これは、待機児童の問題の発言をお聞きして… 高齢者の介護、特養施設の受け入れ、医療、防災など…

回次	提出者	内 容
第2回	委員	<p>先般の会議では、委員各位のご意見は最でありましたが、賑わい創出するための具体的なことが見えてこない。今までの市街地が果たしてきた役割である重要性や求心力は低下している現状において、町の店主の意見は単発的なイベントでは一過性しか成らず、N I N J Aフェスタのように観光に取り組むとかえって店の負担になる。今までの商いでは努力しているが中々賑わい創出までにはいかない。</p> <p>それでは、如何したらいいのか考えてみると、伊賀市では「いがぶら」で着地型観光を目指して取り組まれていることや、今までのまちかど博物館があります。これらを生かし、町歩きと体験（忍者・伊賀焼・組紐）ができる街として中心市街地をデザインしてはと思います。そのことが計画できれば、芭蕉記念館も図書館の立地もそれぞれの公共施設の活用も考えることができ全体のグランドデザインができると思います。</p>
	傍聴者	<p>賑わい創出の基本方針</p> <p>①外来者を呼び込むだけでなく旧上野市街地住民の大人（特に高齢者）と伊賀の子供（大学がないので高校生以下）に対しての魅力作りも検討してはいかがでしょうか。</p> <p>地元文化、教育の機能の中心地としての役割も担い地元で生活したいという高齢者、若い人を増やすことを声高にできないでしょうか？</p> <p>桔梗が丘高校は、3年後に無くなりその生徒は、名張西、名張高校の選択以外に大阪、津方面に行かず、上野高校、白鳳高校に行くようになれば地元の永続的な住民として少しでも増やせるのではないのでしょうか？</p> <p>②南庁舎の場所は、商業的な性格の建物でなく恒久性のある建造物がないのではないのでしょうか</p> <p>③市街地の主道路を車が通行させるだけでは、賑わいにつながらないのではないのでしょうか。駅から歩くところ（500mぐらい）の賑わい創出の取り組み。そのためには、旧市街地の活性化に地元自治会、商店街の参加が不可欠と思いますが、委員は自治会、商店街の人は？</p> <p>④夜の飲食街を駅周辺に集積するよう支援する。（ルートインホテル宿泊客をねらう）</p>

回次	提出者	内 容
第3回	傍聴者	<p>明日の伊賀市図書館を考える</p> <p>伊賀市の知的文化水準の向上のためには図書館の整備が必要不可欠です。</p> <p>これからの伊賀市を担っていく若い人たちのために早急を実現させていく必要があります。</p> <p>今までの図書館を利用していた人や、このままで良いといっている人達が、十年・二十年先も変わらず今のままの図書館を利用できているのでしょうか。もしそうだったとしたら伊賀市だけがまわりの市や町、県からも取り残されているでしょう。いまでもすでに乗り遅れているのですから。</p> <p>2006年に発表された文部科学省からの報告で、「これからの図書館像：地域を支える情報拠点をめざして」にある「地域の課題解決を支援する」という理念に沿っていない現状が現在の「伊賀市上野図書館」なのです。</p> <p>今のままで良いと思っている人たちが国も方向をめざす理念から遥かに遅れているという実態を知ってほしいと思います。</p> <p>0歳から十代の利用者を増やすために、そしていまでも図書館に訪れたことのない人達が気軽に利用できる、憩いの場としての図書館を希望します。</p> <p>南庁舎を図書館にという話の前に、図書館のとなりに土地が売りに出ているという話があったようですが、増築できれば少しは広くなり読み聞かせ室ができると喜んでいました、駐車場から道路に出なくても図書館に入れるかもと、その次に庁舎を移転して玉突きで南庁舎に図書館が出来ると聞き、いつ出来るのかと楽しみにしていましたが、このままでは図書館の話が進んでいきません。</p> <p>もし図書館を今のままでよいと考えているのなら、とても残念です。若者の流出は止められないでしょうし、伊賀市の活性化もないと思います。極端な話ではないと思います。</p> <p>今のままでも市民は暮らしていけるでしょう、それはネット社会など、溢れる情報の中で情報に流され、自分の考えを持たず、自分で考えることをしない人間を多く作ってしまっているのですから。</p> <p>そのうち犯罪や子供の自殺、非行の増加など伊賀市でも他人事ではなくなってくるのではないかと思います。読書は生きる力なのです。</p> <p>図書館という知的文化拠点を充実させることで、伊賀市の発展が見えてくるのではないのでしょうか。</p> <p>結果が見えてくるのは今日、明日ということではありません。十年、二十年という長い話ですが、それがこれからの伊賀市にこそ必要なのではないのでしょうか。</p> <p>☆望む図書館としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い駐車場、・芝生、グリーンがある中庭（読書も出来、子どもたちが自由に走り回れるところ）、 ・飲食可能な部屋、・カフェは地元の人材、食材を使用、・時間延長、・子どもの感性を育てる読み聞かせ室、 ・ゆっくり静かに読書ができる部屋、・ミニコンサートが開ける広い視聴覚室、 ・一人ひとりのスペースにゆとりのある学習室、 ・人と本をつなぐ図書館コンシェルジュの導入、 ・広い読書スペース、 ・広い書架（車椅子・ベビーカー・シルバーカーも通れる広さがある）、 ・ラーニングコモンズ（利用者のグループ学習支援を目的とした場所）、 ・サークル・ボランティア活動などで利用できる会議室、 ・館内に心地よい音楽が流れている、 ・エレベーターや階段はカウンターからみえるところに、 ・ユニバーサルデザインを考えたバリアフリー仕様、 ・リーディング室（視覚障害者用の設備） ・拡大鏡の設置、 ・市民ギャラリー（手芸・絵画など手工芸の展示スペース）、 ・講演会が聞ける・小講座が気軽に受けられる場所がある、 ・併設するなら美術館、小ギャラリー（地元の人たちの作品を常設展示できるスペースを確保）、 ・芭蕉、忍者、元永定信（絵本作家）、榊嶺山、岸宏子、奥瀬平七郎、北泉優子、横光利一、古川タク、出口治明（ライフネット生命保険会長）さん等、豊富な伊賀地域の著名人のコーナーを併設する

回次	提出者	内 容
第3回	傍聴者	<p>高倉委員が施設を思いつきでバラバラに造っても良いことはない、コラボレーションするのが大事とおっしゃっていました。図書館は、他のどの施設ともコラボレーションできる施設です。伊賀市の貴重な資料を保存しているので、芭蕉翁記念館などのコラボレーションでより大きな情報発信基地として観光の拠点になることができると思います。</p> <p>また、乳幼児から高齢者まであらゆる世代が利用でき、交流することも可能です。癒しの空間にもなります。平日でも利用者が多い、集客力のある図書館を交通アクセスの良い場所に据え、そこを中心に動線を考えていくのが大切だと思います。</p>
	傍聴者	<p>新しく整備すべき施設のイメージの中の図書館への意見</p> <p>知的生産の場所としての機能を持たせる…。他、高倉先生の意見に賛同致します。かつての図書館は、ひたすら静かに本を読む学生が勉強のみに使う場所の常識は古いと思います。現在はさまざまな目的で訪れる老若男女のそれぞれのニーズに応える場の施設が必要であると思う。</p> <p>本探しだけでなく、観光客等にも近隣の昼食が出来る場やカフェ、おすすめの店も案内してくれるようなコンシェルジュのような図書館が必要である。</p> <p>それが市民のいこいの場となり、新たな賑わいの創出だと思ふ。</p>
	傍聴者	<p>高倉委員が施設を思いつきでバラバラ造るのは良くない、コラボレーションすることが重要であると言われた意見に関して、図書館が赤ちゃんから高齢者まで多世代が利用できる施設として、伊賀市民の核となり、芭蕉翁記念館や観光施設との複合的な利用を考えると望ましい。</p> <p>芭蕉翁記念館や観光施設単独の施設は、利用が見込まれるのはほとんど土・日・祝祭日だけとなる。しかし、図書館は土・日のみならず平日の利用もコンスタントに見込まれる。</p> <p>図書館と他の施設とのコラボレーションにより、観光客を含む市民との賑わいが最大限に活かされるのではないかと考える。</p> <p>図書館は、サービス対象者の動線を考えると、徒歩や自転車、車などで通いやすく、公共交通機関からも便利の良い場所に設置するのが望ましい。</p> <p>今後、少子高齢化が進み、若者の車離れが進んでいる日本で、観光客も自家用車ではなく公共交通機関利用が増えると見込まれる。このことから、図書館を核とした複合施設を交通アクセスの良い場所に、ぜひ設置されることを希望する。</p>
第4回	委員	<p>事業化スケジュールの枠組を考えると、本命の南庁舎の取扱いだけでなく、喫緊の建て替えが必要な芭蕉翁記念館や市立図書館の建設時期が問題になります。先日の会議で発言しました様に、いずれ建築すべきものは合併特例債が利用できる期間に竣工すべきで、市役所の新庁舎完成までに順次着工しなければなりません。</p> <p>消防本部移転が済み次第（消防本部が伊賀市洪水ハザードマップで浸水想定地域に含まれていても）蔵書が浸水被害に会わないような建築で跡地に図書館を新築し、図書館の跡地に芭蕉翁記念館を新築するという事業化をすすめるべきだと思います。</p> <p>私は南庁舎は老朽化により取壊し商工会議所や市議会提案の複合施設として検討すべきで、新庁舎完成以前に南庁舎の残留部署を仮庁舎（周辺の支所等）に移転させ、取壊し複合施設の新築を早急に決め、着工させるべきだと思います。</p>

回次	提出者	内容
第4回	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・くり返しになるが伊賀の文化シンボルとして芭蕉記念館を眼にふれる庁舎跡に新設してほしい（伊賀の顔として） ・集いの場所として庁舎跡の活用は理にかなっている。最大限活用するためには目的にかなった新館が最良で、過去にとらわれず斬新なものが求められる（観光の中核として案内、憩い、軽食、土産など手軽に求められるものがよい） ・古い考えとしても図書館の集客力がなお疑問、また本来の学びの場としての静かさがどこまで保持できるのが心配、さらに町村、郡部の人に利用してもらえるか疑わしい ・全体として早期決断、早期実行を望む。庁舎跡に駐車場は広く取りたい
	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現庁舎自身が文化財的価値を有する近代建築であるため、庁舎を保存・活用する ・国登録有形文化財への登録（文化庁からは文化財としての評価を得ている） ・設計者の坂倉準三は、日本を代表する建築家であり、師匠のル・コルビュジェとともに設計した国立西洋美術館（東京都）はすでに国重要文化財指定を受け、世界遺産の候補となっている ・文化庁は、現在、世界的にも高い技術・評価を有する日本の近代建築の保存活用や建築図書の収集に力を入れており、専用資料館である「国立近現代建築資料館」を開館し、坂倉準三は既に収集対象の建築家となっており、展覧会等も開催され伊賀市庁舎の図面も公開展示されている ・伊賀市庁舎については、日本建築学会、日本建築家協会、ドコモモジャパンから保存活用要望書が出ており、三重県内で保存要望書が出された希少事例である。 （DOCOMOMO=Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement：モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織） ・三重県建設技術センターによる調査結果で、保存活用は可能という診断結果が出ている ・近代建築を改修する技術は、近年、向上しており事例も増えており、伊賀市庁舎も創建当初のきれいな状態に戻すことが出来る ・以上のように、三重県内の近代建築・公共建築の中で、比類なき歴史・文化的価値を有しているといえる
	傍聴者	<p>協議会の皆様には、市の賑わい創出に向けてご議論されておられることに対しまして、心から敬意を表します。</p> <p>さて、今回の協議会を傍聴させていただきましたが、ご議論の結果、南庁舎を取り壊すべきか、保存すべきかのアンケートを取られました。結果については次回の協議会にご報告されるのですが、このことは平成27年9月25日の第4回伊賀市議会定例会において「南庁舎は取り壊すべき」との議決を二元代表制の一翼を担う議会が決議をしていることのご認識をいただきたいと存じます。</p> <p>又、第3号委員の（行政関係者）副市長が今回の賛否のアンケートの参加されることに非常に違和感を感じました。</p>

回次	提出者	内 容
第 4 回	傍聴者	<p>市のにぎわいは、誰の為にするのか、市民の為に？それとも観光客の為に？やはり市民の為にあってほしいと思う。市の中心に愛されるべき建物が必要で、その為には図書館が 1 番ふさわしいと思う。</p> <p>例えば、「忍者の事なら伊賀市図書館へ行けば全てわかる」等何かに特化した図書館にすれば観光客も来場し、集客につながるのではないだろうか。観光コーナー等も設置して、忍者めあてで来館した観光客が他の場所にも足を伸ばしてくれるよう、情報発信も担ってもらえれば一石二鳥のように思う。</p> <p>伊賀の町並みに合うようにリノベーションされれば（浅野委員が今の技術できれいにできると発言があったので）市民からも愛され、観光のスポットになる建物に生まれ変わると思う。</p>
	傍聴者	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野委員さんの言われた日本を代表する建築家・坂倉準三の建物をリノベーションしないという意見が多かったのが残念だった ・坂倉準三のホームページの中にも、伊賀市庁舎、南庁舎の存続の事を見ました ・本当に観光地として世界に発信していく事を大切に考えているのなら文化的価値について慎重に考えるべきだと思います ・伊賀の創生計画を考えるには、図書館として文化的価値のある建物を利活用するべきだと思います ・図書館に来られた観光客に、坂倉準三氏の文化的価値のある建物を知ってもらい、上野の古い町並みへ足を運んでもらう ・南庁舎をリノベーションした図書館を、知の拠点として存在を位置づけるべきだと思います ・伊賀の新たな玄関口として南庁舎をリノベーションするべきだと思います ・建築的にリノベーションするとどのようになるのかという事ももう一度委員の方にプレゼンしたら良いと思った
	傍聴者	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、坂倉準三氏がガル・コルビュジェに師事し、国立西洋美術館の建築にも関わった日本を代表する建築家である事を知った ・今回の委員会で、その貴重な建築物を残さないという意見が多かった事に大変落胆している ・日本中に新しいものが溢れ返っている現在、歴史的な建物をリノベーションし、伊賀市民の知識の拠点となる図書館を核とし、あらゆる世代が集える場所にする ・併せて伊賀市の歴史と観光の玄関口として観光客も迎えられる施設とし、情報拠点としての賑わい創出をしたい ・この建物を基地として歴史的な街並へいざなう ・全国の観光客を呼ぶためには全国横並びの新しい建物では観光客は見向きもしない、他の町のどこを探しても、同じものが無い建物があるからこそ伊賀市に観光客が来るのだと思う ・第 3 回に提出した意見書が第 4 回に反映されていなかった、この意見を見て委員さんの意向が少しでも変わることがあったと考えると非常に残念だ
	傍聴者	<p>どのメリットを重視して選ぶと良いのかを考えると「公共交通、車ともにアクセスしやすく、市民にとってあつまりやすい場所となる」メリットから B - 1 案が良いと思いました。</p> <p>図書館は、市民生活を中心とする賑わい創出だけでなく、歴史と観光の情報発信基地でもあるので、伊賀の観光情報拠点としての賑わい創出もできると思います。</p> <p>第 3 回の後に提出した意見が第 4 回に何も反映されていませんでした。開かれた会議を原則としているのですから、きちんと反映してもらいたいです。</p>

回次	提出者	内 容
第4回	傍聴者	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="389 248 1455 405">1. 現南庁舎は、市役所ではなく、集客力の高い新機能施設を入れるためには取り壊さざるを得ぬ。「新しい酒は、新しい革袋に入れるべし」である。新機能施設を、この50年を経過し現代にマッチせぬ外観デザインの建物の入れようとすれば必ず失敗し、泉下の坂倉準三氏が泣くであろう。 <li data-bbox="389 416 1455 618">2. 現南庁舎をとり壊し、日本の文学史を代表する大詩人である松尾芭蕉を顕彰し、老若男女誰もが理解し、楽しめる新芭蕉館を中心に、奥瀬英三、松浦莫章、浜辺万吉、榊嶺山、元永定正氏らの小美術館や物販店、レストラン、会議室、小ホール等を併設し、年間30万人～50万人の観光客や市民を集客する文化観光施設を建てる。各施設等の面積等基本条件を示し、具体建築構想案を全国から公募選定するべし。 <li data-bbox="389 629 1455 707">3. 検討委員会に提案されている忍者公園は、別の土地を探し、建てるのがふさわしいであろう。 <li data-bbox="389 719 1455 790">4. 図書館は、現建物を中心に周辺の土地を活用し、閲覧室、保管庫、駐車場を充実させればよい。

回次	提出者	内 容
第 4 回	傍聴者	<p>第 4 回を終えて 配布資料 3 では B - 2 案を支持します。少し変更もあります。 (理由) 南庁舎の場所は、長く上野市の中心として市民に根付いた愛着のある場所だと思います。 西から中学校、上野高校、赤門、小学校と教育施設が並び未来の伊賀を背負っていく子供たちを育む場所に図書館は、最高の施設です。上野高校をより高い優秀な子供を卒業させる学校に支援し、伊賀に他地域からも人材が集まるようにしてほしいと思います。そこには地域の若い人のコミュニティもできると思います。 電車通学、バス通学も便利でこの上ないところです。又、市街地なので歩いて高齢化している旧市民は利用しやすく又、地域住民も車だけでなく公共交通手段及びコミュニティバスを利用しやすいと思います。 図書館は、建物自体恒久的なものが、建てられるイメージがあり、維持管理も経営判断で左右されることも少ないと思います。外観の良いものにする価値があります。 しかし街の賑わい創出は、観光が主力と当然思います。 伊賀上野城へ観光バスを誘致するには、観光施設が必要で、A 案の支持者が多いのは、創造できます。上野商工会議所の提案書はよく考えられたものだと思います。 しかし、車利用の集客は、街の渋滞をつくり、むしろ市街地の賑わいを阻害してしまい長期的に経営者の裁量に左右され、重荷になることも想像されます。 観光客は、伊賀上野城、俳聖殿、忍者屋敷、だんじり会館⇒観光施設（伊賀焼、組みひも、昼食（伊賀牛、田楽）できょうならになれば、市街地の店舗は、前も通らずに終わるのではないのでしょうか？ 観光施設は、身近な例では、道の駅的なものをイメージできます。極端なところ建物は、安普請でよいと思います。例えば、桃青中学校の体育館を補強した程度で、食事の場所ができないかと思ひます、廃校の校舎の解体は、それでよいと思ひます。移動は、公園の規制があるそうですが、橋をかけます。 観光施設は、イベントの対応などで城北駐車場・消防署跡地がよいと思ひます。あそこであれば、上野市運動公園に近く、スポーツの大会等で市街から人が集まった時、物産等販売の観光施設は、よいと思ひます。 道の駅から今、「町の駅」を広めようとしているところがありそのイメージで作れば良いのではないのでしょうか。 災害時には、市街からのボランティアの受け入れの場所が必要です。 宿泊対応もできます。ホテルも近くにありその拠点に出来るのではないのでしょうか。 多くの方が、長い時間をかけ会議を重ねてきたらうこと想像できます。 私の信頼する友人に一級構造士で、長く構造設計、現場施工監理、民間の審査機関を務めてきた人があり、南庁舎の解体か、再利用か意見を聞いたところ、「50年経過でも耐震補強して使用しても良いと思うが、構造の業界では、東日本大震災以降地震に対する考え方の見直しをしているところがあり、東南海地震への対応をどうしているかで建て替えるほうが良いということになるだろう」といっています。コスト的には、既存利用は安くつくはず。 個人的には、市の先達が、日本の代表的な建築家の坂倉準三に依頼し、また良い景観を残しているものを出来れば多少維持費がかさんでも継承してほしいと思ひます。 芭蕉記念館は、委員の方（第 4 回）提案で現図書館の場所でやれるのであれば、芭蕉の生誕地に近く、市街地を歩いていきやすいところなので賛成です。 ルートイングランディア伊賀上野は、ルートインホテルの業務形態では、観光主体のホテルです。ルートインのような全国で成功しているシティホテルが、この辺鄙な伊賀の地に観光ホテルをたてたことにもっと地域として協力して集客を考えてほしいと思ひます。ホテルに泊まっても近くに飲食を楽しめるところが、必要です。 ハイトピアの東側の旧新天地の横丁がいいと思うのですが？ 聞くところでは、東町集会所の建設が計画されているとか？あそこは、飲食街として最適だと思うのです。タクシー乗り場に近くてよいと思ひます。 提出期限になってしまいました。ここまでとします。</p>